

礼儀正しく品位ある 社風(風習)をつくるよう努力しよう。

社員、職員の言動が礼儀正しく、規律が守られている職場は、いつ見ても気持ちのよいものです。そのための一つとして、職場における上司、先輩に対する礼儀、けじめがあります。

職場は組織によって成り立っているもので、遊び仲間の集団ではありませんから当然、そこには規律が必要ですし、また上司、先輩、同僚、部下、後輩に対して各々礼儀正しくあることが求められます。

上司、先輩に媚へつらう必要はありませんが、上司、先輩に対しては、ある種の敬意を持って接することが大切で、そうしてこそ礼儀正しい、けじめある職場の雰囲気醸成されるといえます。上司、先輩に対する言葉遣い、応対、指示・命令の受け方なども尊敬の心があってはじめて、形だけではない生きたものになると思います。

高齢者住宅業界や介護業界においても同じことが云えます。新人からベテランまで、途中入社の上級者の方も、又、様々な職種の方が働いています。そこには組織があります。当然上下関係があり、それなりの礼儀、立ち居振る舞いが求められますが、そうしたところが少し希薄になっていないでしょうか。ご入居者・ご利用者・ご家族はもちろん、様々な方がホームや事業所を訪れ、そうした情景を見ていらっしゃいます。誰も何も言いませんが、そこには何とも言えぬ空気感が漂い、居心地の悪さを感じるものです。

こうした空気感は管理者を始め皆さんが感じ取っているはずで、良いコミュニケーションを取り合って、個別の対話や朝礼、会議等を通じて注意しあい、改善を促していくことが大事です。上司・先輩が発言・行動をすることによって、きちっとしたけじめある態度で接していることが部下・後輩の目にも「自分たちもそうあらねばならない」と映ることになり、自分自身に跳ね返り、またそれを見ている外部の人たちにも好印象を与えることにもなるのです。

もちろん上司は上司でこうした敬意に恥じない言動をすべく、後輩、部下は謙虚に行動に表すべく、お互いに尊敬しあい、平素より不断の努力を続けるべきであることは当然です。

長嶺堅二郎

